

すずらん 1階

地域密着型サービス自己評価票（網掛け部分は外部評価も行う調査項目） 取り組んでいきたい項目には「1」が入っています。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
			理念に基づく運営 1～5 (自己 1～24・外部 1～14)	自己評価24項目・外部評価14項目	9	
理念に基づく運営	1		理念の共有(自己 1～3・外部 1～2)	自己評価3項目・外部評価2項目	0	
		1 外部 評価 1	地域密着型サービスとしての理念【外部評価】 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	明るく、笑顔で毎日充実し、家庭的な生活を送ってもらうようにサポートしている。ご近所のかたとともに気軽に声を掛け合い、地域の一員として暮らしている。	0	
		2 外部 評価 2	理念の共有と日々の取り組み【外部評価】 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に理念について考える行動をするために、ミーティングや勉強会を開き、励ましや指導し実践している。	0	
		3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域にふれあう事の大切さを家族の方と話し合い、運営推進会議やすずらんだより勉強会の資料など提供して、理解してもらえるようにしている。	0	
		2	2 地域との支え合い(自己 4～6・外部 3)	自己評価3項目・外部評価1項目	1	
		4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	顔を覚えていただけるように、散歩や買い物の際気軽に声をかけて交流を深めている。散歩の途中に幼児が立ちよってくれるようになり入居者にも喜びご得られている。災害時の協力もお願いしている。	0	
	5 外部 評価 3	地域とのつきあい【外部評価・重点】 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎月1回ある地域ふれあいサロンへ入居者と参加しゲームや食事を一緒に楽しんでいるまた、夏祭りやもちつきにも可能な限り参加している。	1	元気な入居者と地域の清掃活動（秋）に参加を予定している。	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営	2 支 地 域 合 と いの	6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	行事や地域参加は早めに話し合い、計画を立て、利用者、職員の状況に沿った無理のない取り組みにしている。	0	
		3	理念を実践するための制度の理解と活用(自己 7~11・外部 4~7)	自己評価 5 項目・外部評価 4 項目	4	
		7 外 部 評 価 4	評価の意義の理解と活用【外部評価・重点】 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティング、勉強会を通して実際に取り組み、問題をあげ反省し、改善に取り組んでいる。	1	今回は自己評価を他の職員にも各部署で担当してもらい、意識を持ってもらうようにした
		8 外 部 評 価 5	運営推進会議を活かした取り組み【外部評価・重点】 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域との情報交換をしたり、介護保険の内容症状に合わせた勉強会を会議で活発に働きかけている。	1	会議は入居者の同席できるように、リビングにて行い、顔と名前を覚えてもらうようにしている。
		9 外 部 評 価 6	市町村との連携【外部評価・重点】 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	家族からの問い合わせや介護に対する疑問は、地域包括支援センター、市介護保険課に尋ねている。	1	昨年10月に監査があり指摘、改善することにより地域に公表、向上につながった。
		10 外 部 評 価 7	権利擁護に関する制度の理解と活用【外部評価・追加】 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者がいる事もあり、制度について勉強している。また、問い合わせには分かり易く答えられるようにしている。	0	
		11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会、研修会、地域支援包括センター職員の方に来ていただき講演会を開催した。虐待防止のテーマは2ヶ月取り組みホーム全体で取り組んでいる。	1	ホームでは「言葉の虐待」を取り上げ、何気ない一言が入居者の尊厳を傷つけていないか？をテーマにした。これからも取り上げていきたい。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
		4	理念を実践するための体制(自己 12~18・外部 8~10)	自己評価7項目・外部評価3項目	2	
理念に基づく運営	4 理念を 実践す るため の体制	12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書、運営規定を準備し理解して頂くように口頭にて説明している。疑問点はそのつど応答できるように他の職員も理解している。	0	
		13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	問題点などは、すぐに管理者や職員で解決法を考え利用者が納得出来るようにしている。家族面会時には意見、訴えなど聞き運営に反映させるようにしている。	1	自ら意見や訴えのできない利用者が増えてきたので、日常生活の中での行動把握、なにげない発語によりもっと反映させたい。
		14 外部 評価 8	家族等への報告【外部評価・重点】 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	懇談会、毎月のホームだよりにて暮らしぶり職員移動、退職等は報告し、健康状態は定期診療を行い家族に報告している。面会の少ない家族へは電話にて報告している。	0	
		15 外部 評価 9	運営に関する家族等意見の反映【外部評価・重点】 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には必ず意見、要望、不満等を尋ね、ミーティングやケアカンファレンスを開き介護計画に反映させている。また、苦情窓口を設けサービスの向上に努めている。	0	
		16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の業務連絡会を開催し、各部署の意見を発表する機会がある。	1	勉強会、研修の機会が増えた。また、正社員への雇用も増えた。
		17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	柔軟に対応できる職員を面接時に相談し採用している。行事や家族の要望がある時は、早めに計画を立てて勤務の調整をしている	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
理念に 基づく 運営	4 理念 ため の実 践制 す	18 外部 評価 10	職員の異動等による影響への配慮【外部評価】 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は入居者、家族に早めに口頭、すずらんだよりにて伝えている。また、移動は、日頃より1階2階の交流をもち、職員と顔なじみになっているのでダメージが少ない。	0	
		5 人材の育成と支援(自己 19~24・外部 11~14)			自己評価6項目・外部評価4項目	2
	5 人材 の育 成と 支 援	19 外部 評価 11	人権の尊重【外部評価・追加】 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	本人の介護力、コミュニケーションの取り方向上心等をみてパート、正職員と雇用形態を変えて採用している。資格取得を勧め希望のシフト作りをしている。	0	
		20 外部 評価 12	人権教育・啓発活動【外部評価・追加】 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育研修や行政の講習会には交代で参加し、レポートを作成し勉強会を開き全員で取り組んでいる。	0	
		21 外部 評価 13	職員を育てる取り組み【外部評価】 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回の勉強会で各自テーマを考えてもらい、その中から今必要な課題を選んで、介護に役立てるようにしている。研修が受けられようなシフト作りをしている。	0	
		22 外部 評価 14	同業者との交流を通じた向上【外部評価】 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームに声かけしネットワーク作りはしているが、交流、訪問はできていない。研修会などで交流し意見の交換は行っている。	1	他グループホームと協働しサービスの質の向上を図りたい。
		23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	親睦会(年2回)や食事会(適時)を設けて職員との信頼関係を築き、自由に意見、質問が言えるようにしている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
	5 と人材 支援の 育成	24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の能力に合った働き方、環境作りをして向上心を高めるようにしている。適材適所を心がけている。	1	運営者は希望者に審査、面接により正社員への雇用をしているので、向上心がもてるようになっていく。
安心と信頼に向けた関係作りと支援 1～2(自己 25～34・外部 15～16)				自己評価10項目・外部評価2項目	1	
安心と信頼に向けた関係作りと支援	1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 (自己 25～28・外部 15)			自己評価4項目・外部評価1項目	0	
	1	25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	訪問し見学してもらい、理解できるように説明している。入院中の方は必ず病院にて本人に会い、本人の言葉を聴くようにしている。	0	
		26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が相談にみえる時は、困難な事例が多いので、相談しやすい雰囲気作りをし、真摯な態度で話をきくようにしている。	0	
		27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活状況を詳しく聞き、把握しどのような支援が適切か判断するようにしている。	0	
		28 外部 評価 15	馴染みながらのサービス利用【外部評価】 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と職員が協力し、他の入居者とよりよいコミュニケーションがとれるような明るい雰囲気づくりをしている。食事の様子をみてもらったり、お茶を一緒にしたりと工夫している。	0	
	2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 (自己評価 29～34・外部評価 16)				自己評価6項目・外部評価1項目	1
係り2 継続 これ 新たな 関係 づ き の 支 援	29 外部 評価 16	本人と共に過ごし支えあう関係【外部評価】 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活を共にする時、どんなに認知症が進んでいても、気づかされることや教えられれば沢山あります。本人の立場になって考えるようにつとめている。それぞれ出来ること、出来ないことを考え、役割を持ってもらっている。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係作りと支援	新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	なんでも話し合えるような信頼関係を築き、協力して支援ができるようにしている。	0	
		31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時の様子や聞き取りにより、理解するように努め、穏やかに日常生活を送られている事を、写真やたよりにして伝えている。その中から会話が生まれるようにしている。	0	
		32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会は多いが、知人、友人の来訪が少ないように思う。高齢者が多いので知人の数も減っている。	1	手紙や電話で関係が途切れないようにしていきたい。
		33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の状況を全職員が把握し上手にコミュニケーションが取れるように努めている。適切な声かけ、ふれあいを大切にしている。	0	
		34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された利用者との連絡を取り合い状況を尋ねるようにしている。家族からの連絡も時々ある。	0	
		その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1～4 (自己 35～51・外部 17～22)				自己評価 17項目・外部評価 6項目
1 の 一 把 人 握 ひ と り	1 一人ひとりの把握(自己 35～37・外部 17)			自己評価 3項目・外部評価 1項目	0	
	35 外 部 評 価 17	思いや意向の把握【外部評価】 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している		自分から訴えるがでない方が多いので、日常生活の中で本人の言葉や行動により把握するようにしている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	1 一人ひとりの把握	36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に詳しいアセスメントを作成して、ある程度把握し、また、日常のかかわりを密にして把握している。	0	
		37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の申し送り、ミーティング、ケアカンファレンス等にて、全職員が把握している。	0	
	2	本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し (自己 38~40・外部 18~19)	自己評価3項目・外部評価2項目	2		
	2 介護計画の作成と見直し 本人がより良く暮らし続けるための	38 外部評価18	チームでつくる利用者本位の介護計画【外部評価】 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	このホームに居て、楽しい、幸せなど生きがいを見出してもらう為に、ケアカンファや家族懇談を行い、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。	1	眠剤服用を減らす取り組みを行っている。日中の行動を充実して服用を止めた事例がある
		39 外部評価19	現状に即した介護計画の見直し【外部評価】 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状に変化がある時は、家族に報告しモニタリング、アセスメントを行い介護計画を見直している。また、入院し退院した時、介護認定の見直しの時にも必ず行っている。	0	
		40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日常の姿が分かるような記録の仕方をしている。利用者の「なにげない一言」を記録し介護計画に活かしている。	1	記録の書き方（処遇記録の書き方）の研修会に参加し勉強しているが、まだまだ、職員の能力に差がある。
	3	多機能を活かした柔軟な支援(自己 41・外部 20)	自己評価1項目・外部評価1項目	1		
	3 多機能を活かした柔軟な支援	41 外部評価20	事業所の多機能性を活かした支援【外部評価】 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院、外食、買い物、花見、山笠見学など利用者の体調を見ながら計画を立てて行っている。その際は、家族にも参加を呼びかけている。	1	家族参加が少ないので、参加できるような工夫をしていきたい。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	4		本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 (自己 42~51・外部 21~22)	自己評価10項目・外部評価2項目	1	
		42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進委員会を開催するようになり、ネットワーク作りができ協力をお願いしている。近くの交番には、ホームの存在を報告している。(検査入院先から居なくなった事例があり、地域との協働の大切さは実感している)	0	
	4		本人がより良く暮らし続けるためのケアマネジメント			
		43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問歯科サービス、訪問マッサージを利用し口腔衛生や下肢筋力低下防止に努めている。	0	
		44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域支援センター職員に相談しアドバイスをもらい解決した事がある。運営推進会議には必ず出席してもらっている。	0	
		45	かかりつけ医の受診支援【外部評価】 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医は選べるように説明している。以前からのかかりつけ医を希望される方は、診療提供書をいただき連絡をとりあっている。	0	
		46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医は、老人医療に積極的に取り組んでいる。往診契約を結んでいる方多いのでホームに来られる時何でも相談している。24時間連絡できる体制になっている。	0	
	47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけ医の看護師や同敷地内ホームの看護師に相談し支援を得ている。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	4	48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際は、面会の機会を利用して、家族や病院関係者と相談して早期退院を促している。リハビリの進み具合など情報を得ている。	0	
		49	重度化や終末期に向けた方針の共有【外部評価】 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期を迎えるについての、意向の確認をとり同意書をえている。かかりつけ医、家族と相談し方針を決めている。	1	終末期の確認により、末期癌の利用者が亡くなる前日まで、ホームで過ごされていた事例がある。
		50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	「看取り」は行なっていないが、かかりつけ医と相談しながら、できるだけホームでみるようにしている。医療が優先される、食事がとれなくなったなどを基準にしている。	0	
		51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人の状況提供やアセスメントなど作成したものを可能な限り提供している。転居先で穏やかに過ごせるように努めている。	0	
		その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1～2 (自己 52～89・外部 23～33)				自己評価 3 8 項目・外部評価 1 1 項目
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1	その人らしい暮らしの支援 (1)～(5) (自己 52～81・外部 23～30)		自己評価 3 0 項目・外部評価 9 項目	4	
		(1) 一人ひとり尊重(自己 52～54・外部 23～24)		自己評価 3 項目・外部評価 2 項目	1	
		52	プライバシーの確保の徹底【外部評価】 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人を尊重した呼びかけや本人を傷つけない介護を心がけている。個人情報には鍵をかけて保管している。	1	難聴の高齢者が多いので、つい大声になる事があるので工夫してい。
		53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者との日常生活の中で、思いや希望を言葉だけでなく、行動や表情などから把握するようにしている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	54 外部 評価 24	日々のその人らしい暮らし【外部評価】 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の一日の流れはあるが、職員間でその日の利用者の状況に合わせて生活するようにしている。入浴を無理強いしたり、食事、起床時間なども個々のペースに合わせるようにしている。	0	
		(2)	その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 (自己 55~60・外部 25~26)	自己評価6項目・外部評価2項目	1	
		55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎日、明日着る衣類を一緒に選んで身だしなみやおしゃれには気を使っている。理美容は家族、職員で行ける方は行っているが、殆ど訪問サービスを利用している。	0	
		56 外部 評価 25	食事を楽しむことのできる支援【外部評価】 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員も一緒に行き、楽しく会話しながら行なっている。弁当やバイキングにしたりして目先を変える工夫をしている。危険がない程度で後片付けを手伝ってもらっている。	1	認知症が進み準備等ができなくなっている。天候を見て、前庭などで食事が出来る事も考えたい。
		57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の好みを聞き、五感刺激や生活のリズムに結びつく場面を作り楽しんでもらっている。行事などにアルコールを出す事もある。	0	
		58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを記録によって把握している。適時に誘導して失禁を減らすように支援している。失禁時は必ず清拭剤にて整容している。	0	
		59 外部 評価 26	入浴を楽しむことができる支援【外部評価】 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日を決めているが、拒否の方が多いが爽快感、風呂が楽しいと思えるように誘導している。状況に応じて無理強いせずに、変更もある。浴室やお湯の温度には特に気をつけている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	心身の状態に応じて、居室やソファにて休憩してもらっている。休憩時は他者が入室しないように配慮している。また、夜間熟睡してもらうように、日常を活発に過ごすように工夫している。	0	
		(3)	その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 (自己 61~66・外部 27~28)	自己評価6項目・外部評価2項目	1	
		61 外部評価 27	役割、楽しみごと、気晴らしの支援【外部評価】 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族からの情報や日常生活の中から得た情報を元に、生きがいのある生活が送られるようにしている。家事、歌、おしゃべり、園芸など色々工夫している。	0	
		62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や喫茶店などに行き、各自支払っている。預かり金として管理し、外出時に持たせている。	0	
		63 外部評価 28	日常的な外出支援【外部評価】 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良い日は、前庭にて、お茶や水やり、掃除をしている。また、近所も散歩、買い物ドライブなど季節に応じて楽しんでいる。	1	家族と出かける機会が少ないので、家族に呼びかけたい。身体機能が低下している方が多いのもある。
		64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望を聞いて出かけるようにしている。デパートや美容院などは家族で行く機会が多い	0	
		65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、子供さんの声が聞きたいと要望が多いので、家族の要望を聞いてかけている。手紙は季節ごとに絵など描いて出している。(文章はめずかし)	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	訪問者がこられた時は、居室やリビングにてお話しができるようにしている。楽しい雰囲気でも他入居者とも会話ができるようにしている(ソファの位置や音楽、挨拶の仕方)	0		
		(4) 安心と安全を支える支援(自己 67~74・外部 29~30)			自己評価8項目・外部評価2項目	1	
		67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会、研修、勉強会にて入居者が受ける、身体的・精神的弊害について理解し拘束しに介護の工夫をしている。	1	危険があると思われる利用者には、承諾書を取り記録に残している。現在は移動時の車椅子ベルト、夜間不穏時のベット柵使用の承諾を得ている。	
		68	鍵をかけないケアの実践【外部評価】 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	徘徊や帰宅願望が強い時はすぐに察知し、声かけてゆっくり話を聴いたり、関心のある事に気分転換したりして、鍵をかけないようにしている。あまりにも帰宅願望が強い時は、一緒に外出するようにしている。	0		
		69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は職員と連携を取って十分に見守りが出来るようにしている。夜勤帯では特に安否、安全確保を心がけ、定時の巡視や物音には、素早く確認するようにしている。	0		
		70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	事故が起きないように、危険と思われるものは、目の届かない所に保管している。はさみやえんぴつ等使用した時は見守りし、使用後は数を点検している。	0		
		71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	避難訓練、人工呼吸訓練は毎年実施しているまた、その時できるだけ利用者にも参加してもらっている。ヒヤリハットをどんな些細なことも作成し重大な事故につながらないように、常に取り組んでいる。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生対応マニュアルを作成し、申し送り、ミーティングで対応を確認しあっている。特に夜勤帯は素早い対応、連絡が取れるようにしている。	0	
		73 外部評価 30	災害対策【外部評価】 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を実施している。災害時に集まる場所や避難経路、連絡網など作成し、運営推進会議や地域行事などで協力を依頼している。	0	
		74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入居者の状態は常に報告し、相談して今後の介護に役立てている。自由にのびのびと生活できるように、強制しない介護をめざしている。	0	
		(5)	その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 (自己 75~81・外部 31)	自己評価7項目・外部評価1項目	0	
		75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、バイタルチェック、排泄の状態、顔色の変化、全体の様子など観察し、異変がある時はかかりつけ医に連絡し指示を受けて対応している。	0	
		76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護計画に処方された服薬表を添付し投薬の確認、誤薬をしない、様子確認など職員全員で取り組んでいる。	0	
		77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックは毎日行い、食事摂取や水分摂取量を記録している。繊維質の多い献立や体動の促進に努めている。また、下剤などのコントロールにて酷い便秘にならないようにしているが、できるだけ、薬に頼らないようにしている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後には必ず口腔ケアを見守り、介助しながら行っている。義歯の方は夜間ポリデント消毒を実施している。理解できない利用者には職員と一緒にするようにしている。	0		
		79	栄養摂取や水分確保の支援【外部評価】 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量は記録している。体調状態（糖尿病やその他の病状）や体重を基準とし、かかりつけ医と職員、家族と相談し支援している。	0		
		80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	食事前、外出後のうがい、手洗い支援し、外部からの来訪者も事前に通報し、協力をお願いしている。感染症対応マニュアルを作成している。	0		
		81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	必ず、熱を通したものを食事に出している。 (刺身等の生ものや貝類は出していない。) 食器、台所用品、布巾等は消毒し衛生管理に努めている。	0		
	2	その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)~(2) (自己 82~89・外部 32~33)			自己評価 8項目・外部評価 2項目	1	
	2	(1) 居心地のよい環境づくり(自己 82~86・外部 32~33)			自己評価 5項目・外部評価 2項目	1	
	2 生活環境づくり その人らしい暮らしを支える	82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	前庭には、草花や野菜など植えて、家族や来訪者と一緒に水やりや手入れが出来るようにしている。玄関は季節感を味わってもらおうような工夫をしている。	0		
		83	居心地のよい共用空間づくり【外部評価】 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心感を持ってもらうように、利用者と季節の花を作り飾ったり、昔の音楽をかけたたりして、職員と利用者が常に一緒に行動する事で不穏を早く察し、居心地良く過ごせるようにしている。	1	大声を出す利用者により、他利用者が不穏になる場面が出ているので、工夫したい。	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者は思い思いの場所で、自由に過ごしている。リビング内や前庭では、お茶やお話しをしながらも、お互いの距離を保ちながらたのしんでいる。(さりげない見守りは欠かさないようにしている。)	0		
		85 外部評価 33	居心地よく過ごせる居室の配慮【外部評価】 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人にとってかけがえのない物や慣れ親しんだ物は、入居時、家族にお願いし持って来てもらっている。昔の写真や子供、孫、知人の写真など飾っている。	0		
		86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度調整は利用者の衣服を調整する事によって、あまり変化がないようにしている。冬は加湿器を使用し調節している。快適性を重視する為、悪臭がしないように消臭に努めている。	0		
		(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり(自己 87~89)			自己評価3項目	0	
		87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺の設置、段差の無い広いリビングにし、自由に安全に歩けるようにしている。活動性を維持できるように、環境整備に努めている。	0		
		88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	声かけ、身振り、手振りですっかりコミュニケーションを取ったり、絵や文字にて表示して混乱、失敗を防いでいる。	0		
		89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天候の良い日は、前庭へ行き園芸療法(ポランディアによる)、身体機能を高める為にボール遊びや季節の分かる歌など歌い活用している。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいき きたい項目	取り組んでいき たい内容 (既に取り組んでいることも含む)
サービスの成果に関する項目				取り組みの成果 (該当番号を該当番号欄に入力すること)	該当 番号	
サービスの 成果に 関する 項目	90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない	1		
	91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	1		
	92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	2		
	93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	2		
	94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	3		
	95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない	1		
	98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	3		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
サービスの成果に関する項目		99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	1	
		100	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	1	
		101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1	
		102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族と 家族等の2/3くらいと 家族等の1/3くらいと ほとんどできていない	2	
サービスの成果に関する項目				取り組みの成果 (該当番号を該当番号欄に入力すること)	該当番号	

サービスの成果に関する項目の該当番号は、選択肢の該当番号を示します。

番号の上位は自己評価の項目番号を指します。外部評価項目は、番号欄に網掛けをして外部評価と表示し、外部評価の項目番号を下に表記しています。

項目の横の重点は、外部評価の調査結果で重点項目として概要表に記載される項目です。

また追加は、福岡県が国の参考例に自己評価から外部評価に加えたり、新たに自己評価も含めて独自に追加した項目などです。